

会 議 録

1 会議名	第 1 回 南砺市社会教育委員会
2 議 題	・ 委嘱状交付 ・ 委員長・副委員長の選出について ・ 報告事項 (1) 南砺市社会教育委員会に関わる組織・機構について (2) 令和 8 年度南砺市教育委員会重点施策について (3) 令和 8 年度社会教育委員会に関わる当初予算概要について (4) 生涯学習事業について (5) スポーツ関係事業について (6) 世界遺産保全室及び文化財関係の取組みについて (7) 文化芸術関係事業について (8) 南砺市立図書館の取組みについて (9) 令和 8 年度南砺市福光美術館の企画展について (10) こども・子育て支援について ・ 協議事項 (1) なんと生涯学習フェス（旧南砺市社会教育推進大会）の開催について (2) 令和 9 年南砺市二十歳の集いについて ・ その他 (1) 当面の主な行事予定について
3 開催日時	令和 8 年 6 月 23 日（火）午後 15 時から午後 16 時 40 分
4 開催場所	南砺市役所 本館 3 階 302 会議室
5 会議出席者	南砺市社会教育委員 出席 12 人/全 14 人 委 員：武田和一(委員長)、岩井透(副委員長)、中川昇、佐々木律子、森田清仁、小松敬子、嶋倫子、山崎洋、山田与志信、今川浩美、高瀬敏一、秀永ゆかり 事務局：教育長、教育部長、教育総務課長、南砺市立中央図書館館長、生涯学習・文化振興課長、福光美術館副館長、こども課長、生涯学習・文化振興課生涯学習・文化振興係長、生涯学習・文化振興課生涯学習・文化振興係主事
6 欠席者	委員：武田隆啓、橋本正俊
7 傍聴者	無し

8 議事内容	・ 開会 生涯学習・文化振興課長 ・ 開会あいさつ 武田委員長 委員の皆様方には大変お忙しいところ、お集まりいただきましてありがとうございます。皆様方と色々な意見を交わしながら、よりよい南砺市の社会教育となるようにしていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。 ・ 委嘱状交付 後日送付する委嘱状をもって交付とさせていただく旨、説明 ・ 進行 武田委員長 ・ 報告事項 (1) 南砺市社会教育委員会に関わる組織・機構について 事務局：(資料1に沿って説明) (2) 令和8年度南砺市教育委員会重点施策について 事務局：(資料2に沿って説明) (3) 令和8年度社会教育委員会に関わる当初予算概要について 事務局：(資料3に沿って説明) ● 質疑応答 (2) について 委 員：山村留学定住事業について、利賀地域には効果があるように思うが、他地域はどうか。 事務局：「山村留学」ということで、利賀地域に留学して進学を望む児童生徒を受け入れている。現在、利賀地域の子供たちと一緒に勉強やスポーツなどに励んでもらいつつ、将来南砺市に戻ってきてもらい、定住化につながっていく事業として進めている。 委 員：受け入れ家庭は増えているのか。 事務局：受け入れ家庭は6世帯程あり、1世帯あたり2名ずつ受け入れていただいている。これまでの6年間は、平均して11名から13名で推移している。 委 員：学校統合の動きについて、最終的には何年後かには、南砺市全体で小学校2校、中学校1校というような、極端な子供数になっていくと考えられる。将来予測としてはどのような見通しを考えているのか。 事務局：将来的には「20年先」をしっかりと見つめて検討している。それ
--------	---

	までの間に、1 学年 1 クラスというクラス編成の状況が今後どうなっていくかも見定めながら、本来であれば段階的に開くべき「学校検討委員会」を、状況に応じて前倒しで開いていかなければならないと考えている。 (4) 生涯学習事業について 事務局：(資料 4 に沿って説明) (5) スポーツ関係事業について 事務局：(資料 5 に沿って説明) (6) 世界遺産保全室及び文化財関係の取組みについて 事務局：(資料 6 に沿って説明) (7) 文化芸術関係事業について 事務局：(資料 7 に沿って説明) (8) 南砺市立図書館の取組みについて 事務局：(資料 8 に沿って説明) (9) 令和 8 年度南砺市立福光美術館の企画展について 事務局：(資料 9 に沿って説明) (10) こども・子育て施策について 事務局：(資料 10 に沿って説明) ● 質疑応答 (10) について 委員：いろいろな少子化対策をとられているが、まだまだ結果につながっていないと感じている。2 点程検討していただきたい。まず 1 つ目は、「児童手当」と「保育料・副食費軽減」について、国の児童手当では第 3 子以降に 3 万円が給付され、南砺市の保育料軽減でも第 3 子以降が無料となっている。しかし、南砺市の出生率はすでに 1.4 を切るような状況である。つまり、第 2 子すら生まれていない現状において、第 3 子以降の手当をいくら手厚くしてもあまり意味がないのではないか。これらの対象拡大を、最低でも第 2 子以降、できれば第 1 子からに繰り上げるくらいの大胆な政策を打たないと、少子化に歯止めをかけることはできないので
--	--

はないか。2つ目は、「中学校給食費軽減事業」について、小学校はすでに国からの補助もあり完全無償化に新規拡充されたとのことで、子育て世代としては大変ありがたいと思っている。しかし、現在の南砺市の中学校給食費は月額8,240円と、他の自治体と比べて、非常に高額である。実際にはそこから市の補助金が入って実質的な保護者負担金は6,800円となっているが、それでも全ての物価が高騰する中、子育て世代にとっては大きな負担となっている。県内でもすでに朝日町や入善町、舟橋村が無償化しているのに加え、黒部市も中学生の給食費無償化に乗り出すなど、各自治体も少子化対策の優先順位を上げている。黒部市は中学生の数が南砺市とほぼ同じ1,200人弱である。一般会計が100億以上ある中で、黒部市は予算規模約6,000万円で予算全体のわずか0.2%程度を組んで中学生無償化を頑張っている。ぜひ南砺市でも、中学生の給食費無償化をご検討いただきたい。

事務局：「児童手当」につきましては、国の制度であり、市独自で金額などを変えることができないため、こちらはそのまま国の制度に則る形になる。ただ、市独自で設計できる「保育料・副食費」について、現在は第2子半額、第3子無料と軽減になっているが、第2子のさらなる軽減や第1子への支援など、まだまだ考える余地はある。来年度に向けてしっかりと検討していきたい。

事務局：中学校の給食費軽減について、南砺市内小学校の給食費完全無償化は、元々は国からの予算があって初めて動いているところを、どれだけ各市町村が前倒しして独自予算を投入できるかという部分に関わっている。南砺市としても、まずは国や県への最重点要望として「中学校給食費の無償化」を位置づけている。国を先んじて南砺市単独でどれくらい前倒しできるか検討していきたい。

・協議事項

(1) なんと生涯学習フェス(旧南砺市社会教育推進大会)の開催について

事務局：(資料11に沿って説明)

(2) 令和9年南砺市二十歳の集いについて

事務局：(資料12に沿って説明)

・その他

当面の主な行事予定について

事務局：(資料13に沿って説明)

・ 閉会のあいさつ 岩井副委員長

報告でも出ていた「FIS フリースタイルスキーワールドカップ 2026 富山なんと大会」は、様々な資料から、選手たちの中で好評だったと聞いている。「ぜひまた南砺市で開催してほしい」という声が多く上がっているようだ。しかし、大会を継続して運営するのは財政面で非常に大変であるというのが現実である。たまたま選手たちに会う機会があり、その体つきを見て驚いた。バスケットボールやバレーボールの選手のような大柄というわけではなく、普通の青年の身長だった。しかし、腕や太ももが信じられないほど太く、やはり、強靱な肉体でなければ、過酷な斜面を滑り降りることはできないのだと、間近で見て実感した。 駐車場や運営面での課題はあったが、事故もなく無事にやり遂げ、世界各国の選手たちに喜んでもらえたことは確かだ。世界規模の大会が、この南砺市で行われたということは、市民にとっても大変素晴らしいことであったのではないかと思う。また、会議の中で「空き家」という言葉が出ていたが、最近は空き家バンクに個人の移住希望者だけでなく、民泊関係の業者がどんどんアプローチしてきているらしい。幸い、現時点では近隣の地域でトラブルは起きていないそうだが、単に何でも受け入れているだけだと、想定外の課題が生じるリスクもある。こうした地域の情報や課題についても、社会教育委員の皆さんとしっかりと共有していきたい。本日はありがとうございました。